聖書日課『からし種』2024.8.25－9.1

8月25日 （日） エレミヤ 13章	**「あなたたちが聞かなければ／わたしの魂は隠れた所でその傲慢に泣く。涙が溢れ、わたしの目は涙を流す。主の群れが捕えられて行くからだ」（17節）。**バビロンによるエルサレムの陥落を幻に見たエレミヤの涙に、その約 600 年後、エルサレムに近づいて都を眺めたイエスの涙が重なる。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら…」（ルカ19：42）。
26日 （月） エレミヤ 14章	**「我々はあなたを待ち望みます。あなたこそ、すべてを成し遂げる方です」（22節）。**「安易な平和と希望」ではなく、「罪による破滅」をしっかり語るよう主から命じられたエレミヤは、「御名にふさわしく、我々と結んだ契約を心に留めてください！」と懸命に執り成し訴える。厳しい言葉を発しながらも、イスラエルの民を愛し抜いておられる主の慈しみを知っていたから。
27日 （火） エレミヤ 15章	**「あなたの御言葉が見いだされたとき／わたしはそれをむさぼり食べました」（16節）。**主の命令は「金よりも蜜よりも甘い」（詩編 19：11）。預言者エゼキエルは手渡された巻物を口に入れると「蜜のように甘かった」（エゼキエル 3：3）という。エレミヤが「むさぼり食べた」ように御言葉を求めているか。朝ごはんと同じように、御言葉をしっかり「食べて」一日を始めたい。
28日 （水） エレミヤ 16章	**「見よ、わたしは多くの漁師を遣わして、彼らを釣り上げさせる、と主は言われる」（16節）。**主イエスは「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と弟子たちを招かれた。きっとエレミヤのこの言葉が心にあったのだろう。破滅から救い出し、「新しい出エジプト」、解放と幸いに導く「主イエスの福音」を伝える働き。私たちもこの働きに主によって召されている。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会

聖書日課『からし種』2024.8.25－9.1

29日 （木） エレミヤ 17章	**「人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか。心を探り、そのはらわたを究めるのは／主なるわたしである」（9－10節）。**エレミヤが取り次ぐ主の言葉は私たちに、「外面（そとづら）は信仰者のように見えるが、あなたの内実はどうなのか？」と厳しく迫ってくる。「心を探り、そのはらわたを究める方」の前に、正直に立つ信仰をいただきたい。
30日 （金） エレミヤ 18章	**「見よ、粘土が陶工の手の中にあるように、イスラエルの家よ、お前たちはわたしの手の中にある」（6節）。**誰かから「お前は我が手中の粘土だ」と言われたら、「あなたはいったい何者ですか？」と問いたくなる。しかし、私たちをその手の中に大切に覚えてくださる方は「とこしえの愛」をもって祈り続けている方。この方の恵みに今日も包まれていることを覚えて。
31日 （土） エレミヤ 19章	**「陶工の作った物は、一度砕いたなら元に戻すことができない。それほどに、わたしはこの民とこの都を砕く」（11節）。**主なる神は、私たちが考えているよりもはるかに「厳しい方」。その「厳しさ」を安易に考えてはいけない。同時に主なる神は、私たちが考えているよりもはるかに「慈しみ深く、忍耐強く、祈り続ける方」。「神の慈愛と峻厳とを見よ」（ローマ 11:22）。
9月1日 （日） エレミヤ 20章	**「主の名を口にすまい／もうその名によって語るまい、と思っても／主の言葉は、わたしの心の中／骨の中に閉じ込められて／火のように燃え上がります（9節）。**エレミヤほどに主の言葉に誠実であろうとし苦しんだ預言者がいるだろうか。エレミヤの涙をご自分の涙とし、最期まで十字架を背負われた主イエスの傍らで今エレミヤは大きな慰めを受けていることだろう。

大井バプテスト教会